

令和元年度全国高等学校教育改革研究協議会

選択協議題 A

～地域との連携・協働による新しい高等学校づくり～

『長崎県の“ふるさと教育”について』



長崎県教育庁高校教育課

1 長崎県の概要

(1) 人口 1,325,744人

【推計人口（令和元年9月1日現在）】

(2) 市町 13市、8町

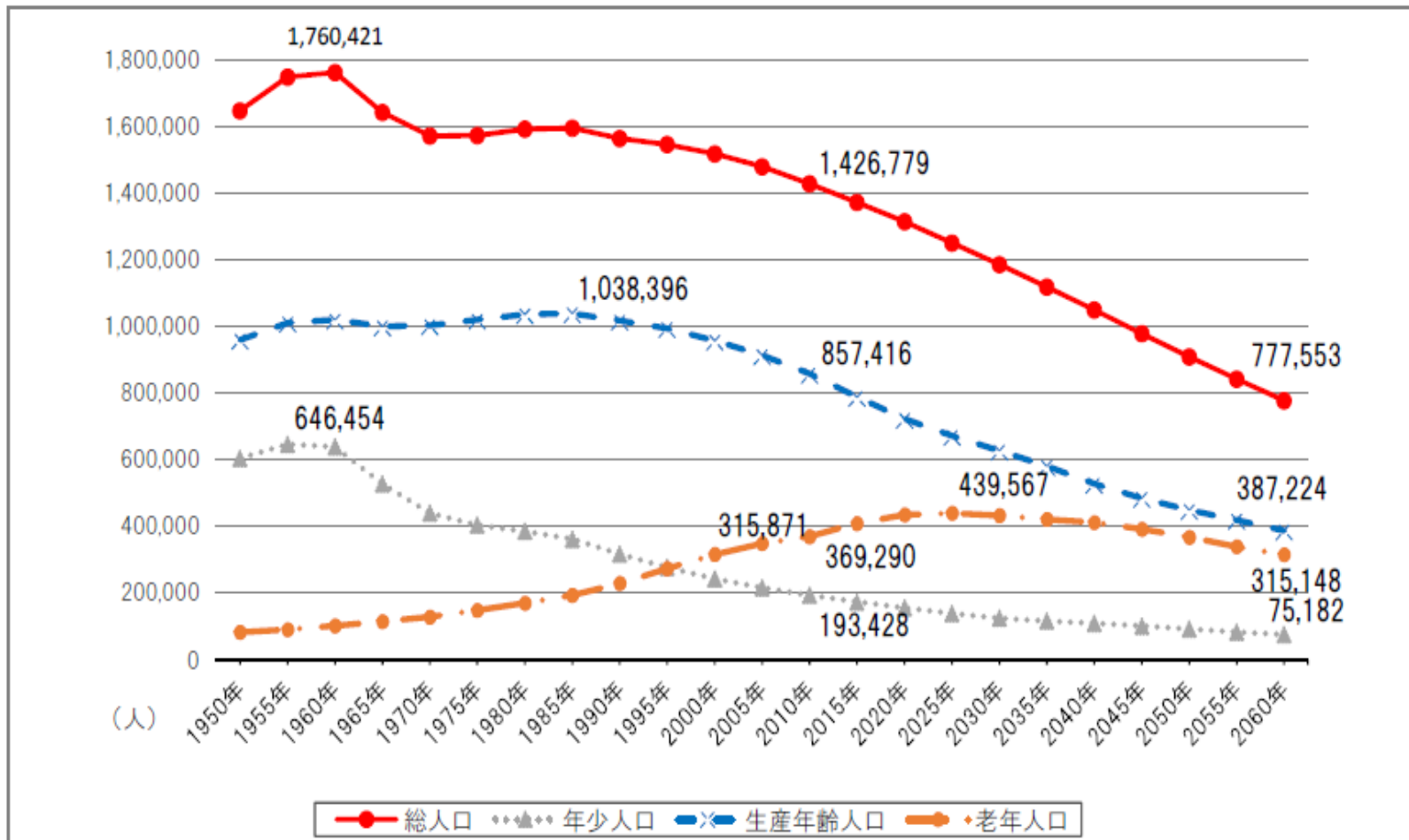
(3) 高等学校 80校
(公立57、私立23)

(4) 島の数 971 (全国1位)

【海上保安庁調べ】



2 長崎県の現状



出典：長崎県長期人口ビジョン

急速な人口減少と少子高齢化

3 長崎県の計画

第三期 「長崎県教育振興基本計画」 (2019～2023年度)



～長崎の明日を拓く人・学校・地域づくり～

ふるさと長崎への愛着と誇りを持ち、地域社会や産業を支え、国際社会の発展に貢献しようとする態度を育みます。

- ・ **ふるさと教育の推進**
- ・ キャリア教育・職業教育の推進
- ・ グローバル化に対応した教育の推進
- ・ 子どもたちの体験活動の推進
- ・ 平和教育の推進

4 “しま地区”の取組例①

「消滅可能性都市」（2014年日本創成会議）発表の頃から、

上位に挙げられた“しま地区”の高校を中心に、

市町と連携した地域創生型探究活動が広がり始めた。

4 “しま地区” の取組例②

(1) 中五島高校『パブリックワーク』

- ・地域課題解決型探究学習。
- ・新上五島町の全面バックアップを受け、地元企業や地域住民と協働して、改善策や新規事業等の提案を町民の前で発表する。



(2) 五島高校『バラモンプラン』

- ・社会探究型課題研究のキャリア教育。
- ・グローバルな視野を持ち、ローカルに活躍する人材の育成を目指す。
- ・「バラモンプラス」という課外活動も活発で、ドローンレースや環境シンポジウムの開催、五島ピザの開発など、地域を巻き込んで活動している。



4 “しま地区”の取組例③

(3) 上対馬高校『島の宝プロジェクト』

(4) 壱岐高校『iプロジェクト』

(5) 宇久高校『U k u L a b o』

(6) 松浦高校『まつナビ』

(7) 佐世保西高校『ふるさと創生大作戦』

5 長崎県のふるさとと教育①

ふるさとと教育の全体計画

義務教育課・高校教育課・生涯学習課

現状と課題

=== 本県最大の課題は人口減少 ===

- 長崎県の人口は1960年の176万人をピークに、2010年には**143万人**まで減少
(長崎県は、多くの離島・半島を抱えており、特に離島地域では人口が半減するなど、非常に厳しい状況)
- このままでは、**2060年には78万人に減少**する見込み(これまでの倍のスピードで人口が減少)
- 従来からのふるさとへの「愛着・誇り」の育成に加え、ふるさとを担う**人材の育成が急務**

小学校

中学校

高等学校

ふるさとへの愛着・誇りの育成

- 自然・歴史・文化・産業その素晴らしさを知る
- 人々の営みと苦勞・工夫や努力その尊さを知る
- 家庭や地域の温かさ、人とのつながりの「よさ」を知る
- 人口減少、環境保全、産業振興等の課題を知る

家庭や地域に愛され、
多様な体験・交流活動
を通して豊かな心を育
てる

地域を知り、よさに
気づき、当事者
意識をもつ

地域課題の解決力の育成

- 郷土史研究や伝統芸能を継承する部活動
- 「総合的な学習の時間」での地方創生にかかる課題研究
- 専門高校等における地元の食材を用いた商品開発
- 祭りや地域行事、公民館活動への参加・参画

ふるさとに対して何が
できるのかを考え
実践する

長崎っ子の「夢・憧れ・志」応援会議の開催

コミュニティスクールを軸とした「ふるさと教育」モデル事業

「ふるさと長崎県」を活用した中学校社会科授業の展開

地域振興策の研究・実践

- 具体的な地域振興策の提言(首長部局等)
- 成果物(各種マップ・商品開発)の実用化
- 起業家マインドの育成
- ふるさとを活性化する地元企業での職業体験学習の実践
- 社会教育における中高生の地域貢献活動

家庭・地域との連携・協働

(PTA研修会を活用した啓発、保護者の学校支援会議や公民館活動への参画など)

地域を担う人材の育成

人口減少の抑制・地域活性化

「住みたい、住み続けたい、訪れてみたい、もどってきたい」地域

これまでの取組

本事業の取組

5 長崎県のふるさとと教育②

ふるさととの未来を担う高校生育成事業

高校教育課

課題

①長崎県においては、若者の流出や人口減少が著しく、高校生の段階から地域への関心を高め、ふるさとへの愛着や誇りを育み、ふるさととの未来を担う人材としての志を育成し、若者のふるさとと定着につなげる必要がある。

現状

②専門家や地元市町の協力を得ながら、地域課題の解決策の提案や地域の魅力発信をおこなったり、地域を巻き込んだイベントの企画・運営をおこなったりして、「ふるさとと教育」の充実を図る。



6 『ふるさととの未来を担う高校生育成事業』①

1 背景

本県最大の課題である人口減少を抑制するためには、これまでの「**ふるさと教育**」の取組を一步進めて、**ふるさと**を担う人材の育成に取り組む必要がある。

2 目的

各学校が地元市町や専門家の協力を得ながら、「**ふるさと教育**」に取り組み、**ふるさと**に対するより一層強い誇りと愛着、**ふるさと**に貢献したいという意識を生徒に醸成することで、若者のふるさとへの定着へとつなげていく。

6 『ふるさと未来を担う高校生育成事業』②

3 概要

毎年県立高校 6 校、**3年間で18校**を研究指定する。

研究指定校は、専門家や地元市町の協力を得ながら、地域の魅力の発信や**地域活性化に向けた提案**や、地域住民・地元企業を巻き込んだ**イベントの企画・運営**などを行う。

その活動成果を、発表会を実施することで、指定校以外の高校にもノウハウを波及させ、県下全体により深みのある**「ふるさと教育」**を広めていく。

令和3年度までに各学校独自の「ふるさと教育」についての「体系図」と「実施計画」の作成を全ての県立高校に義務付け。

7 事業の成果として

① 指定校へのアンケート

『将来ふるさとの発展に貢献したい
という意識が高まった生徒の割合』

90.3%

② 地域を知る学習や地域住民や行政機関、事業所等との協働を通じて、**地元への就職**を希望したり、**地元に貢献するための進学先**を選択する生徒が増えてきた。

③ 高校生の取組に触発されて、**地元行政機関と事業所が連携**したり、地域住民の**地域活性化への意識**が高まった地域が増えてきた。

8 今後に向けて

- ① 取組を計画したり、学校と地域の連携を推進する
スキルやノウハウをもつ人材が乏しい。

→ 教員への支援（研修）

- ② 都市部の普通科進学校において、その規模や地域性
もあり、十分な取組がなされていない学校が多い。

→ 「キャリア教育×探究型学習」
プログラムの開発

9 まとめにかえて

長崎県の「ふるさと教育」とは？

“ふるさと長崎”の魅力を実感し、愛着と誇りを持ち、さらに承継発展させようとする意欲や態度、ふるさとに貢献したいという意識を育む教育。

将来、地元で地域社会や産業を支える人材や、県外や海外から本県の発展に貢献する人材の育成。



ご清聴ありがとうございました。